還暦のお祝いをしていただいて

産業開発青年隊同窓会　会長　鈴木　浩明

令和 5 年 1 月 8 日（日）富士宮市のレストラン萩の亭で 6 名の異業種団体の新年会（元美会）が夫婦同伴で行われました。その中でわたくしの還暦のお祝いをしていただきました。

わたくしの誕生日は 2 月 27 日ですのでまだ少々早いのですが、夫婦そろっての新年例会で行われているということで、お祝いしていただきました。

わたくしは、独り身ですので、妻の代わりに母親が出席しました。

持ち回りで使用されている、真っ赤な赤いちゃんちゃんこと頭巾、を着させていただき、そして、大きな花束をいただきました。

私の叔父も入会していましたが、57 歳で亡くなりましたので、還暦のお祝いはできなくて亡くなりました。そして叔母も会員になっていますので、総勢 13 名の出席でした。
父親の年を越し（33 歳のとき交通事故で死亡。）叔父の年を越し（57 歳のとき肝硬変で死亡。）そしてとうとう祖父の年となりました。（60 歳のとき肝硬変で死亡）

昔は、人生 50 年といわれ、最近では、平均寿命が男性 81 歳といわれていますが、やはり一つの壁が 60 歳のようです。

還暦を迎えて、私が思うこと。それは、私が今あるのは、産業開発青年隊の教育を受けることができたことに尽きると思います。隊員の時には、寝食を共にし、厳しい訓練や、講義を受け、災害復旧や、派遣実践に参加し様々な体験をさせていただきました。また、隊員の時のブラジル派遣実践では、多くの南米産業開発青年隊協会の方々と交流をさせていただき、これが今の、会長就任の基礎になっていると思います。また、産業開発青年技術協会の職員として、指導員業務を行い、その時の経験、特に海外随行員としての経験が、今も生きていると思います。

人類平和のため、友愛と団結をもって、理想の社会を建設する。という綱領のもと産業開発青年隊の隊員として生活をし、海外の方と交流する機会もあり、言葉の大切さ、コミュニケーションの大切さを現地で体験をさせていただきました。

人生の中で体験した、苦しみや悩みを乗り越えることにより、優しさを身に着けることができたと思っています。

これら体験が、今の自分にとっての大切な糧となっているのは事実であります。

さて、今回の還暦のお祝いをしていただき、思ったことを最後に述べさせていただきたいと思います。先に述べました通り、産業開発青年隊としての経験は今も脈々としてわたしの身体にしみ込んでいます。今年はわたくしの還暦の年であり、産業開発青年隊創設 70 周年の年でもあります。今年で、私の会長の任期も終了するわけでありますが、会長であるないに関わらず、一つの区切りとして創設 100 年まで生き抜きたい。そして朝霧の地の記念碑の前で、長澤先生と、吉留先生に「100 年一区切りまでお守りできましたよ。」とご報告をしたい、そしてその横には、わたしの連れ合いがおり、「お父さん、ご苦労様」と優しく声をかけていただければこれ幸いだと思います。90 歳まで元気で生きなければなりませんが、

健康に留意して、優しい連れ合いと巡り合い、産業開発青年隊創設 100 年の記念の時までは、産業開発青年隊の記念碑を守りたいと思いました。夢も語らなければ、実現しないといいます。私ができる長澤先生と吉留先生への恩返しとして、夢を実現できるよう、努力精進をしてまいりたいと思います。産業開発青年隊創設 100 年に何人の方が集まれるかはわかりませんが、私たちの青春の大切なひと時を生きてきた聖地であり、長澤先生や吉留先生が愛してきた聖地であります。夢を実現できるように頑張りたいと思います。

その第一歩として、まずは 11 月 25 日に開催予定の産業開発青年隊創設 70 周年記念大会に多くの皆さんが参加されることを切にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。